

# 教育内容に関するアンケート調査 結果報告 (大学)

令和6年3月11日  
広島文化学園大学  
教学支援センター

## 1 調査目的

在学中に身に着けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、卒業生が、本学の教育内容等についてどのように評価しているのか等の調査を行い、結果を本学の教育改革にフィードバックすることにより、更なる改善に資する。

## 2 調査期間

令和5年12月

## 3 調査対象

卒業生(令和3年3月卒業生)

## 4 調査方法

Google フォームによる回答 (無名式)

## 5 回収率

大学教育内容アンケート調査の配布数と回収率

看護	学芸	合計	宛名不明	回答数	(回答率)
115	75	190	23	17	10.2%

## 6 アンケート調査結果

### A あなた自身について伺います

#### (1) 卒業時の所属学部・学科

- ① 看護学部 看護学科 7人
- ② 学芸学部 子ども学科 6人
- ③ 学芸学部 音楽学科 4人

#### (2) 性別

- ①男性 4人 ②女性 13人

### B 本学の教育内容について伺います

#### (1) 本学での授業や活動を通して、どのような力が身につきましたかお尋ねします

- 1-1 幅広い教養が身についた
- 1-2 専門的知識とその応用力が身についた
- 1-3 積極性・チャレンジ精神が身についた
- 1-4 豊かな人間性が育まれた
- 1-5 生涯にわたって学び続ける能力が身についた
- 1-6 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力が身についた
- 1-7 問題を発見し、解決する能力が身についた
- 1-8 コミュニケーション能力が身についた
- 1-9 プレゼンテーション能力が身についた
- 1-10 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力が身についた

1-11 実践に役立つ資格・検定が取得できた

(2) 本学は次のようなことを教育の特徴としていますが、これらが卒業後に役立っていますかお尋ねします

- 2-1 専門的知識・技術の修得
- 2-2 対人援助力の養成
- 2-3 幅広い教養教育の実践
- 2-4 実習等に基づく実践的な教育
- 2-5 汎用的能力の養成
- 2-6 コミュニケーション能力の涵養
- 2-7 きめ細やかな指導体制
- 2-8 自由な校風
- 2-9 個性を伸ばす教育
- 2-10 実社会で通用する知識・技術の養成

### C 就職・キャリア支援について伺います

(1) 在学中に学んだことや経験したことが、就職後に役立っていると思う事は何ですか  
(複数回答可)

- ①専門的知識及び技能
- ②各種免許状及び資格・検定取得等
- ③社会人としての基本的マナー
- ④コミュニケーション能力
- ⑤幅広い教養
- ⑥プレゼンテーション能力
- ⑦問題解決能力
- ⑧積極性・チャレンジ精神
- ⑨語学力(外国語含む)
- ⑩情報処理関係技術
- ⑪アクティブ・ラーニング
- ⑫読書
- ⑬ボランティア活動
- ⑭サークル活動
- ⑮アルバイト
- ⑯その他( )

(2) 就職後、「在学中にもっと積極的に取り組んでおけばよかった」と思う事は何ですか  
(複数回答可)

- ①専門的知識及び技能の習得
- ②各種免許状及び資格・検定の取得
- ③社会人としての基本的マナーの習得
- ④コミュニケーション能力の習得
- ⑤幅広い教養の習得
- ⑥プレゼンテーション能力の修得
- ⑦問題解決能力の習得
- ⑧積極性・チャレンジ精神の習得
- ⑨語学力(外国語含む)の修得
- ⑩情報処理関係技術の修得
- ⑪アクティブ・ラーニングの習得
- ⑫読書

- ⑬ ボランティア活動
- ⑭ サークル活動
- ⑮ アルバイト
- ⑯ その他( )

(3) 在学生に対し、自分の進路を決めるとき、在学中にやっておくとよいと思うことは何ですか (複数回答可)

- ① 早期の進路に対する準備
- ② 各種免許状及び資格・検定取得等
- ③ 職種・業界研究
- ④ インターンシップの経験
- ⑤ 社会人としての基本的マナーの修得
- ⑥ 文章能力・読解力の向上
- ⑦ 語学力(英語等)の向上
- ⑧ 積極的な企業等へのアプローチ
- ⑨ 就職・キャリアセンターの活用
- ⑩ その他( )

## 7 調査結果

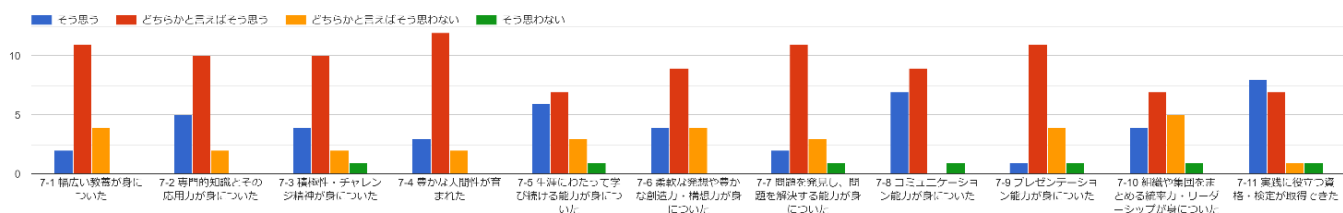
集計数 17 (男性:4 女性:13)

A 看護学部看護学科: 7名 学芸学部子ども学科: 6名 学芸学部音楽学科: 4名

B 本学の教育内容について伺います

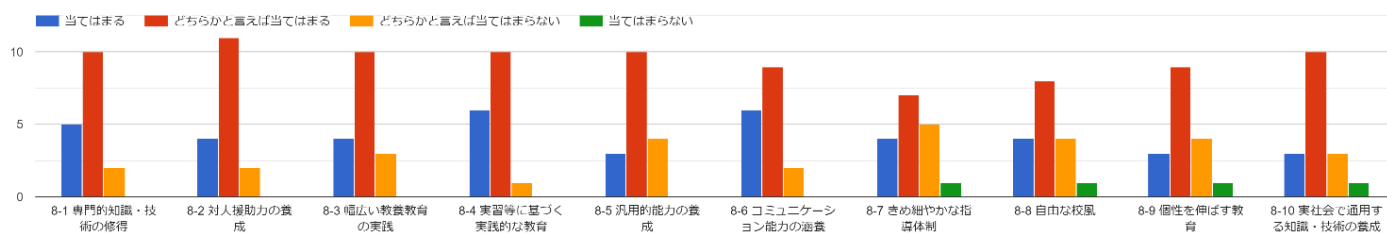
(1) 本学での授業や活動を通して、どのような力が身につきましたかお尋ねします

- 1-1 幅広い教養が身についた
- 1-2 専門的知識とその応用力が身についた
- 1-3 積極性・チャレンジ精神が身についた
- 1-4 豊かな人間性が育まれた
- 1-5 生涯にわたって学び続ける能力が身についた
- 1-6 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力が身についた
- 1-7 問題を発見し、解決する能力が身についた
- 1-8 コミュニケーション能力が身についた
- 1-9 プレゼンテーション能力が身についた
- 1-10 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力が身についた
- 1-11 実践に役立つ資格・検定が取得できた



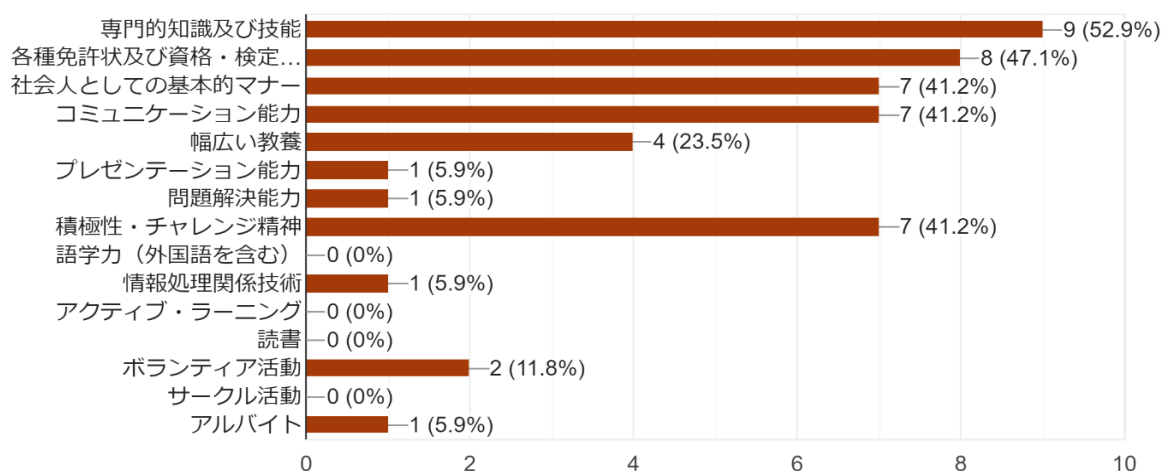
(2) 本学は次のようなことを教育の特徴としていますが、これらが卒業後に役立っていますかお尋ねします

- 2-1 専門的知識・技術の修得
- 2-2 対人援助力の養成
- 2-3 幅広い教養教育の実践
- 2-4 実習等に基づく実践的な教育
- 2-5 汎用的能力の養成
- 2-6 コミュニケーション能力の涵養
- 2-7 きめ細やかな指導体制
- 2-8 自由な校風
- 2-9 個性を伸ばす教育
- 2-10 実社会で通用する知識・技術の養成

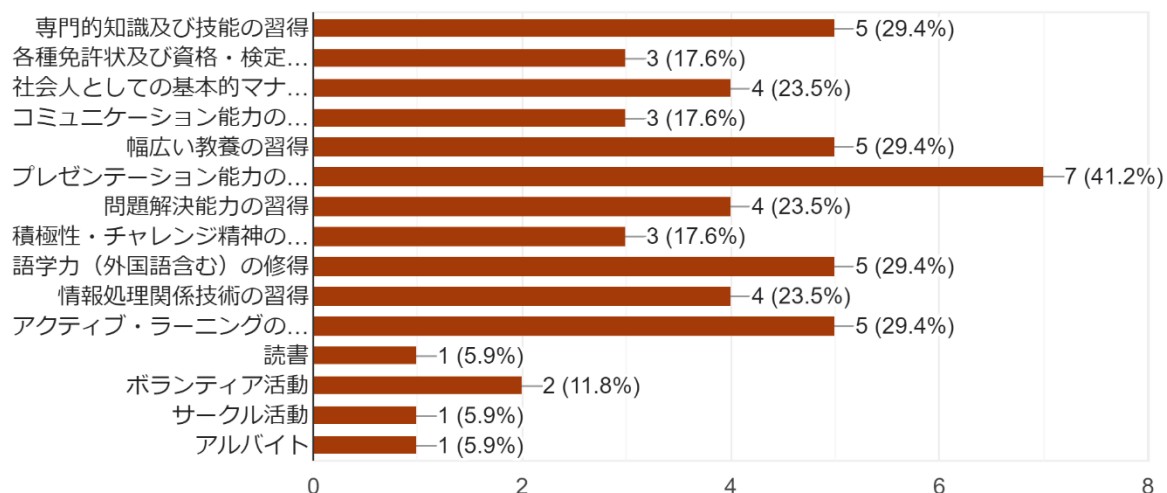


### C 就職・キャリア支援について伺います

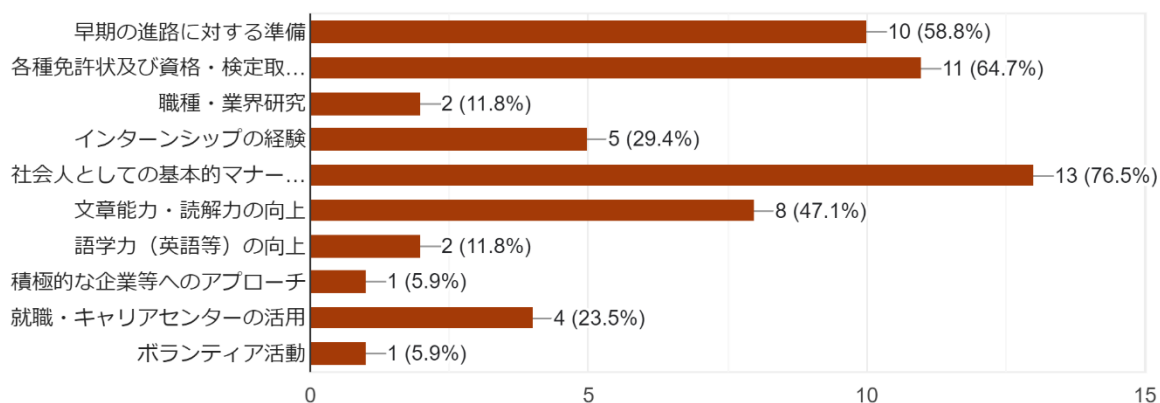
(1) 在学中に学んだことや経験したことが、就職後に役立っていると思う事は何ですか (複数回答可)



(2) 就職後、「在学中にもっと積極的に取り組んでおけばよかった」と思う事は何ですか  
(複数回答可)



(3) 在学生に対し、自分の進路を決めるとき、在学中にやっておくとよいと思うことは何ですか  
(複数回答可)



8 結果と分析

看護学科	<p>本学で身につけてほしい能力や本学の教育の特徴については、ほとんどの卒業生が、「力が身についた」「卒業後役に立っている」ととらえていた。本学の教育の対人援助、即ち看護実践に直接つながる学びを修得できた結果である。一方、「本学の教育の特徴が卒業後役に立ちましたか」が5割であった、『自由な校風』『個性を伸ばす教育』については、COVID-19の影響による制限も一因と考えられる。看護学科は臨床と関わることが多い学科であるため、感染防止に努めながら学生一人ひとりが、個性を發揮し学修や学生生活を送ることができる環境づくりの取り組みを強化していく。</p>
子ども学科	<p>身についた力として「コミュニケーション能力」、「実践に役立つ資格・検定」、「積極性・チャレンジ精神」が高得点となっている。また、卒業後に役立っている教育の特長として「実習等に基づく実践的な教育」、「コミュニケーション能力」、「専門的知識・技能」、就職後に役立っている経験として「コミュニケーション能力」、「免許状及び資格・検定取得等」、「幅広い教養」、「積極性・チャレンジ精神」が高得点となっており、コミュニケーション能力の育成や人間力の向上、免許・資格の取得、幅広い教養と専門性など、人間教育・教養教育の充実を基盤とし「人間力」「学力」「専門力」「就職力」からなる「自己実現力」の向上を目指す本学科の取</p>

	<p>組により一定の成果があったものと考えられる。</p> <p>しかし、その一方で、余り身につけていないと思う力として「幅広い教養」、卒業後に役立っているという意識の低い教育の特徴として「実社会で通用する知識・技能」、「自由な校風」があげられている。また、就職後に役立っているという意識の低い経験として「プレゼンテーション能力」、「問題解決能力」、「情報処理関係技術」、「語学力（外国語を含む）」、「アクティブ・ラーニング」、「読書」、「サークル活動」、「アルバイト」であった。更に、もっと積極的に取り組んでおけばよかったと思うこととして「プレゼンテーション能力」、「アクティブ・ラーニング」、「社会人としての基本的マナー」、「問題解決能力」、「語学力（外国語含む）」、「情報処理関係技術」があげられており、問題解決能力、思考・判断・表現力、情報活用能力などの育成に係る取組に課題があると考えられる。</p> <p>今後、こうしたニーズに応え、課題を解決することができるよう、人間教育の充実、人間力の向上に係る取組の充実を更に進めるとともに、学力・専門力・就職力の向上に向けて、教養教育、専門教育の改善、授業力の向上に向けた取組をより具体的に、また、スピード感をもって進める必要があると考える。</p>
音楽学科	<p>調査に対して回答率が低く、合計4名の回答では、学科としての傾向をとらえるのは難しい。アンケート調査実施以前に、卒業後も大学、学科としてのキャリア支援を継続する体制、卒業生が気軽に相談できる窓口、卒業生にも学びを提供できる機会などが必要であると考えられる。</p> <p>音楽学科では、定期演奏会、公開講座、専任・非常勤講師による門下生発表会、在学生と卒業生が協力し運営するアンサンブルコンサートなど数多く開催し、その結果、卒業生に、教員、在学生との交流を深める多くの機会を提供することができる環境である。</p> <p>学科の教育体制の強化や充実を考慮したり、キャリアセンターとのさらなる連携を図ったりすることで、卒業生、在校生、保護者と円滑に対応できるように取り組む。前年度に引き続き、実習に関わる授業内容の見直しを行い、また授業評価アンケートなど学生からの意見を真摯に受けとめ、チューター、レッスン担当者、学生相談室等と連携をしながら、学生がよりよい環境で、質の高い学びを得て、就職につながられるよう、取り組んでいきたい。</p>

## 9 大学全体のまとめ

調査の回答率が10.2%と低いため限定的な分析となるが、各学部・学科の改善点を把握するための貴重なデータとして、教育課程編成等にフィードバックしていきたい。

以下、大学全体としての調査結果分析の概要をまとめる。

「本学での授業や活動を通して身に付いた力」については、「そう思う」の回答が多い順に、「実践に役立つ資格・検定」、「コミュニケーション能力」、「生涯にわたって学び続ける能力」、「専門的知識とその応用力」、「積極性・チャレンジ精神」、「豊かな人間性」、「プレゼンテーション能力」が上位を占めている。専門力に加えて、人間力及びキャリア形成力に関連する内容についても身に付いていると卒業生が認識している比率が高く、本学の教育理念が4年間の活動を通して、ある程度達成されていると考えられる。逆に「そう思う」の回答が少ない項目としては、「幅広い教養」、「問題を発見し解決する能力」、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」などがあがっており、課題として対応を検討していきたい。

「本学の教育のうち卒業後役に立っているもの」については、「専門的知識・技術の修得」、「実習等に基づく実践的な教育」、「コミュニケーション能力の涵養」、「対人援助力」が上位にあげられている。専門的知識とともに、コミュニケーション能力や対人援助力等のコンピテンシーに関わる教育が役に立っていると評価されている。

「在学中もっと積極的に取り組んでおけば良かったと思う事」という設問は、卒業生に学生生活の反省点を問う側面もあるが、「専門的知識及び技能の習得」、「各種免許状及び資格・検定の取得」、「幅広い教養の習得」、「積極性・チャレンジ精神の習得」など、回答の上位を占めている項目は、各学科における指導において、今後さらに重視すべき事項を検討する際に参考となるものである。

以上今回の調査結果では、いずれの調査項目においても専門的知識・技能や資格・検定が上位に入

っており、卒業生が重要と認識する事項が、各学部・学科のディプロマポリシーに対応している点は評価できる。一方、教養教育や情報教育、外国語教育に関する事項が、「身に付いた力」や「役に立っているもの」として上位に上げられていないことから、特にこれらの領域に関する教育の充実が今後の課題となる。